

PC12台を中継車間を横断して、複数個所からリモート操作できるように！ 中継車のスタンバイ効率化・省スペース化を実現するIP-KVMソリューション

— 限られたスペースの中で、柔軟に効率よく運用できるN対Nの操作環境を構築 —

導入先

STV 札幌テレビ放送
札幌テレビ放送株式会社

導入製品

マルチポート IP-KVMスイッチ・コンソールステーション・LCDドロワー

活用シーン

大型中継車・音声の中継車

用途

中継車用システムPCおよびEVSの制御



札幌テレビ放送 大型中継車
技術ご担当者さまに導入前後のお話を伺いました

取材日：2022年6月1日

取材
ご協力

札幌テレビ放送株式会社 [▽https://www.stv.jp/](https://www.stv.jp/)
技術局 制作技術部 林 徹 様・内山 今朝由 様

【ご担当業務】中継車放送機器のオペレートおよび運用保守

今回は、大型中継車の更新をきっかけにATEN製 IP-KVMソリューションを導入しました。機材選定やシステム構成は、中継車SIメーカーより提案いただきました。

更新前の旧大型中継車では、システム制御PCおよびEVSのオペレート場所が固定されていました。そのため、当時はオペレート場所に合わせてコンソールやケーブルを移設しておりオペレーション上の煩わしさや、場所に制限があることが課題でしたが、IP-KVM

ソリューションの導入によって、**中継車にある多種類のPCを複数個所からすべて操作できるようになりました**。また、今回の更新により制御PCが12台にまで増えたのですが、**それらのPCを大型中継車内だけでなく、音声の中継車やスロー車など別の中継車からも制御できるようになったためスタンバイ効率が格段に上がりました**。

製品導入の決め手となったのは、このような**N対Nの接続・制御が安価で実現できること、またスタンバイ効率と省スペース化への貢献でした**。実際に製品を使用してみるとレスポンスもよく、ストレスなく使用できています。使用しているIP-KVMスイッチは同時セッション数が最大8台まで対応の機器ですが、様々な運用パターンを考慮し、各PCを2台のIP-KVMスイッチに振り分けることで、セッション数を超過することなく作業の効率化を実現できています。



● 導入のポイント

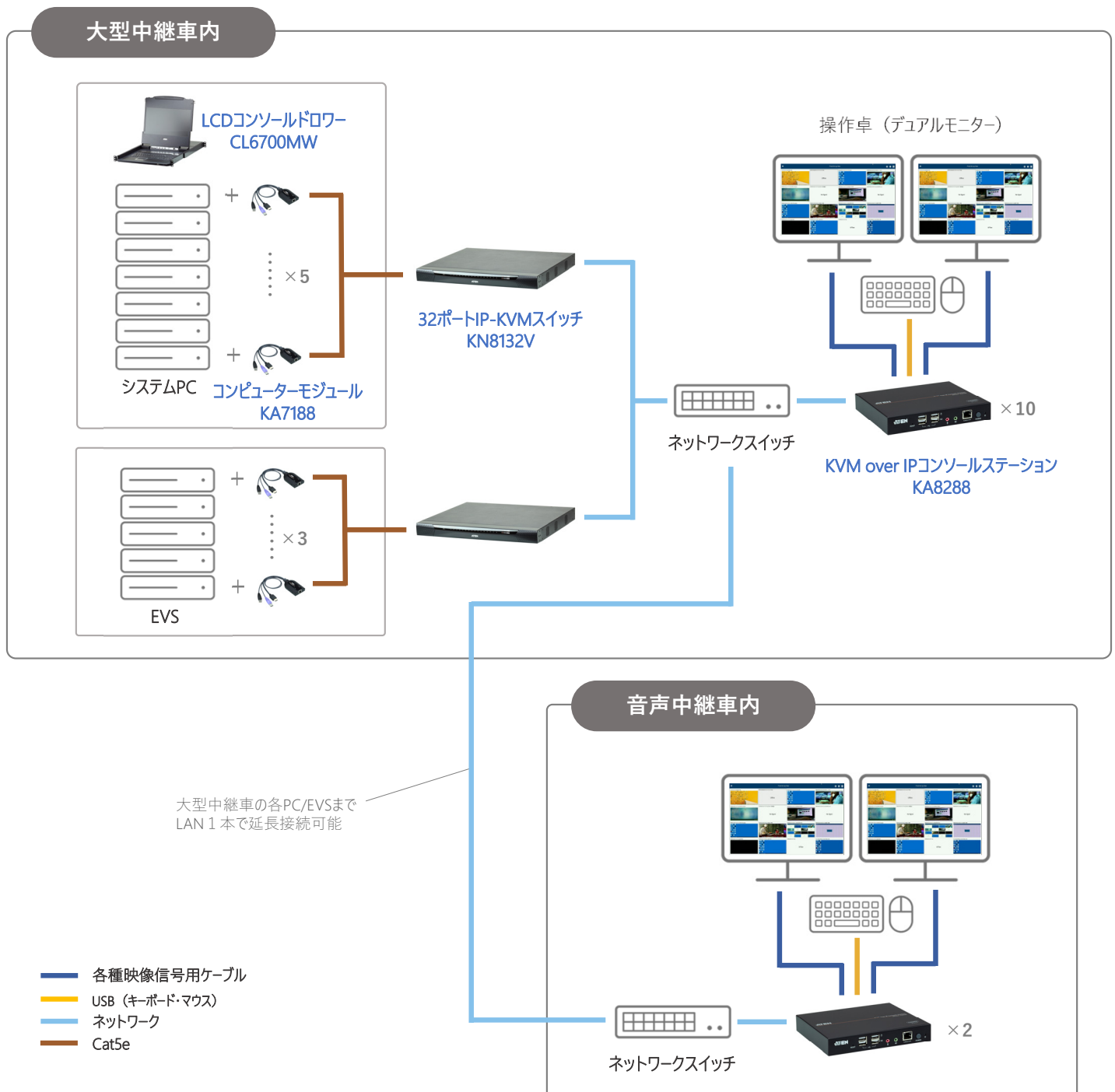
課題・要件

- 中継車の更新により制御PCが増加。限られた空間の中で省スペース化を図りたい
- 制御PCを固定の場所でなく、複数個所から柔軟に操作したい

導入効果

- ✓ 12台のPCをIP-KVMスイッチに集約し、省スペース化を実現
- ✓ N対N接続で、多種類のPCを複数個所からリモート操作可能に
- ✓ LANケーブルで延長接続すれば、複数の中継車間で遠隔操作が可能に

● ソリューション構成図



● 導入製品情報

マルチポートIP-KVMスイッチ



- KN8132V
8リモートユーザー / 1ローカル
ユーザー対応の32ポートモデル

離れた場所からインターネットブラウザを使用して複数のサーバーへのアクセスやモニタリングができる、マルチポートタイプのIP-KVMスイッチ。

KVM over IPコンソールステーション



- KA8288

PCやラップトップの代わりとなる独立型のコンソール。IP-KVMスイッチに接続されているすべてのサーバーに遠隔でアクセスし、モニタリング監視や制御が可能。

コンピューターモジュール



- KA7188

IP-KVMスイッチとサーバーとの接続に使用するモジュール。各種ビデオインターフェースのラインナップがある。

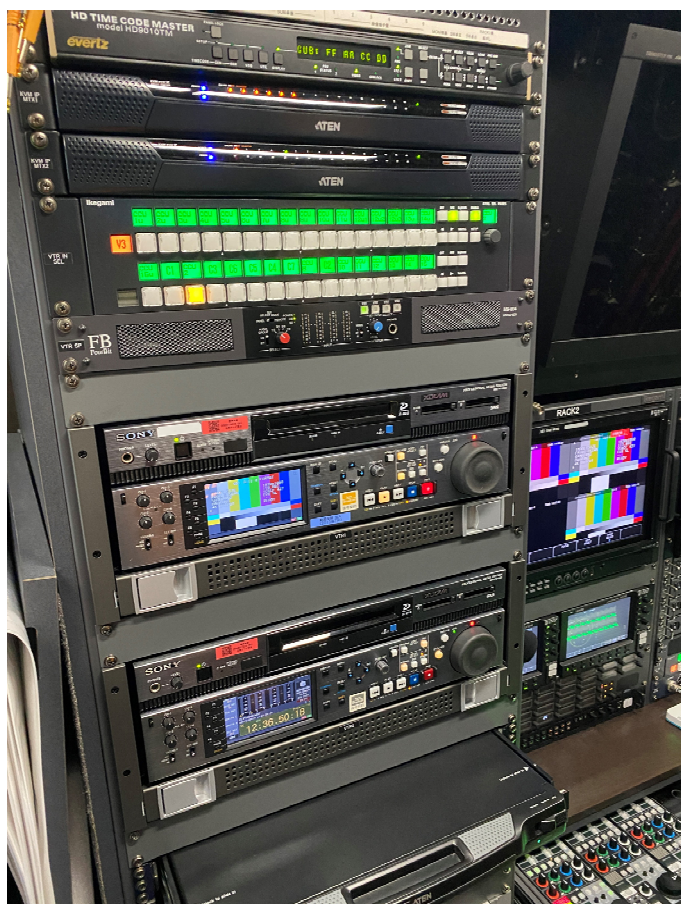
LCDコンソールドロワー



- CL6700MW

フルHD 対応の、17.3 インチワイド画面 LCD一体型コンソールドロワー。1U サイズで快適なコンソール操作環境を提供。

● 導入現場の写真



- ▲ 大型中継車内ラックのひとつ。上段の方にIP-KVMスイッチ、下段の方にLCDドローワーが格納されている。

格納されたドローワーを引き出した状態。限られた空間の中でスペース効率高く作業できる様子が伺える。



- ▲ 大型中継車内にある操作卓のひとつ。デュアルモニター対応のコンソールステーション(KA8288)を使用。

